令和８年度

香川県議会桃園市交流協定締結10周年記念訪問

報告書

令和８年９月２０日～９月２２日

台湾桃園市

１　訪問目的

台湾桃園市との交流協定締結から10周年を迎えるにあたり、訪問団を派遣し、現地において市長表敬等交流協定10周年記念行事に参加するなど、相互交流を一層深める。

２　訪問地域

台湾桃園市

３　訪問期間

令和８年９月20日(日)から９月22日(火)までの３日間

４　訪問者

派遣議員

議　長	氏家　孝志
議　員	里石　明敏
議　員	氏家　寿士
議　員	城本　宏
議　員	植條　敬介
議　員	川池　秀文
議　員	山根　千佳
議　員	友枝　俊陽
議　員	宮岡　陽子

同行者

香川県知事　池田　豊人

高松商工会議所　会頭　綾田　裕次郎　ほか関係者

随行職員　議会事務局２名、知事公室３名

５　日　程

	月　日	地　名	時間	内　　容
1	９月20日 （日）	香川県 台湾桃園市	19:05 20:55	高松空港　発 桃園国際空港　着 【桃園市　泊】
2	９月21日 （月）	台湾桃園市	10:00 14:30 15:45 18:00	知事記念講演会出席、桃園市立図書館視察 桃園市長表敬訪問 桃園市児童美術館視察 桃園市主催晩餐会出席 【桃園市　泊】
3	９月22日 （火）	台湾桃園市 香川県	10:00 14:30 18:05	桃園市内企業視察 桃園国際空港　発 高松空港　着

６　行事及び訪問の実施状況

（１）知事記念講演・桃園市立図書館視察

令和８年９月21日(月) 10:00～12:30

応対者：桃園市政府秘書處　副處長　熊勇智 氏
　　桃園市立図書館　　館長　　施照輝 氏

概　要：

熊副處長からの挨拶、熊副處長と池田知事の間で記念品の贈呈が行われた後、桃園市と香川県との交流協定締結10周年を記念して、池田知事により記念講演がなされた。

講演では、桃園市と香川県の人口密度や面積、ため池の数など比較した話に続いて、県内にあるクレーン会社や造船会社などの製造業、「小原紅早生みかん」や「さぬきのめざめ」などの農林水産業、「栗林公園」、「銭形砂絵」や「小豆島の名所」などの観光業を紹介するとともに特産品である「盆栽」「手袋」「讃岐うどん」のほか、オリーブを活用した畜水産物や農産物など各分野における香川県の誇る製品等が紹介された。

また、これまでの桃園市と香川県の交流事業の歩みでは、きっかけとなった2007年の桃園の武陵高級中学とかがわジュニア・フィルハーモニック・オーケストラ（KJO）との交流のほか、ソフトボールやマラソンなどを通じた交流が行われているほか、2013年の高松空港と桃園国際空港との間の国際定期便が就航以降、双方の行き来が活発になり、2016年７月18日に桃園市と香川県の交流協定が締結され、今では10万人近くの利用があることなど、台湾から香川県に日々多くの方が来られていることが紹介された。

講演の最後には、交流事業に参加した香川県の高校生などからのビデオメッセージが上映されたほか、香川県の魅力ある観光スポットが紹介された。

質疑応答では、「香川を訪れるのにおすすめの時期は？」や、香川を訪れたことのある人から、香川県独自のうどんの食べ方「ひやあつ」に関する質問や「香川を旅行で訪れた際のおすすめのお土産は？」など多数の質問がなされ、池田知事から「暑いけれども、晴れの日が多く、瀬戸内海が美しい８月がおすすめ」、「香川県民はうどんの分類にあまりこだわりはなく、私のおすすめの食べ方は【シンプルなかけうどん】と【冬場の湯だめうどん】である」、「お土産にうどんは外せないが、うどん以外では「オリーブの新漬」がおすすめ」、「主要観光地には電車はあるが本数は少ないので、運転できるならレンタカーが最も効率的」などと回答された。

記念講演の後には、施図書館長と池田知事の間で記念品の贈呈が行われた後、図書館の紹介ビデオ鑑賞と館内を視察した。図書館のほか映画館、レストランなどが備わった複合施設で、図書館には専用アプリやIC技術を活用した貸出・管理システム、オートメーション設備が導入され、効率的な運営が図られているほか、各階にはテーマが設けられ、幅広い世代が利用できる閲覧・交流の場として整備されていた。



記念講演の様子



記念講演での記念撮影





桃園市立図書館視察の様子

（２）桃園市長表敬訪問

令和８年９月21日（月）14:30～15:15

応対者：桃園市長　張善政 氏
桃園市文化局長　邱正生 氏
桃園市體育局長　許彦輝 氏
桃園市秘書處處長　曾俊豪 氏
桃園市副教育局長　林威志 氏

概　要：

訪問団、桃園市の出席者の紹介の後、張桃園市長からの歓迎挨拶、池田知事並びに氏家議長からそれぞれ御礼の挨拶を行った。

張市長の挨拶では「昨年度に香川県を訪問した際の瀬戸内国際芸術祭視察で得たことを、桃園市で開催した桃園ランドアートフェスティバルに活かせた結果、大変好評を得たこと」、「音楽やスポーツを通じて教育の分野で相互理解が促進されたこと」や「池田知事の再選」へのお祝いに触れ、今後少なくとも年１回の会談及び近いうちに香川県への再訪を希望されるなど、今後の桃園市と香川県の更なる交流拡大に努めてまいりたい旨が述べられた。

それに対し、池田知事からは「2025年２月に桃園市で開催されたランタンフェスティバルを訪れた際のお礼」を述べたほか、「今年の11月に桃園市立図書館と香川

県立図書館で、それぞれを紹介するコーナーが設置される催しが開催されることへの期待」や「視察した桃園市立図書館の最先端のシステムなどに触れ、図書館を通じた交流への期待」と、これまでの10年間で築かれた信頼と絆を次に繋げ、より一層の交流発展を期待する旨を述べられた。

氏家議長からは、昨年度の張市長の瀬戸内国際芸術祭視察に伴う香川訪問から１年後に交流協定締結10周年という節目に桃園市を訪問でき、温かい歓迎をいただいたことに対するお礼が述べられた。また、協定締結以降、音楽やスポーツなどを通して深い交流を積み重ねてこられたことを誇りに思うとともに、桃園と高松を結ぶ定期航空便が毎日運航され活発な往来を見せており、支えていただいている張市長をはじめ桃園政府の方々への感謝が述べられた。最後に、引き続き、桃園市と香川県の一層の交流深化に努める旨を述べられた。

この後、意見交換が行われ、池田知事より訪問団に同行の経済界の３名の紹介がなされ、綾田会頭からは、2017年以降、香川と台湾の企業商談会が開催されて、台湾企業の技術力や行動力、そして皆様方の温かさを肌で感じていることや、IT･AI産業が台湾経済を支えている点と香川県がデータセンターを中心とするITインフラの拠点形成を目指す地域の一つに選ばれたことに触れ、IT･AI分野における桃園市と香川県の交流を広げる大きな可能性を述べられた。（池田知事から補足として、都道府県で唯一エヌビディアと連携協定締結して取り組んでいることを紹介）

今回、民間から参加した方々からは、台湾最大の魅力は「人」であり、人の温かさを活かせるよう学生同士の交流をさらに深めてまいりたいとの意見が述べられたほか、日本の伝統文化を取り入れた学びや、就職指導および進学指導を中心としたキャリアセンター取組みなどが紹介された。

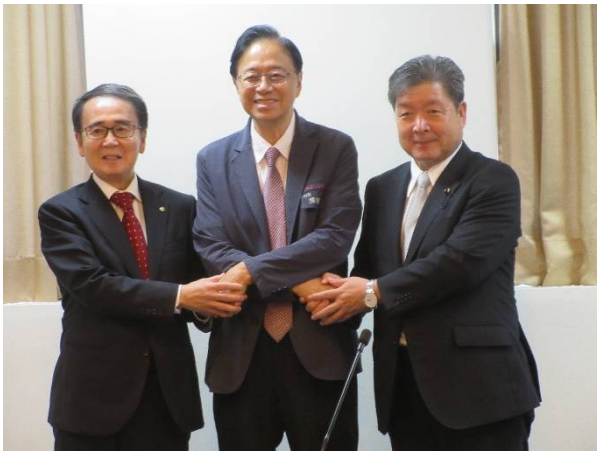
これに対し、桃園市側からAIサーバーの製造に関して、桃園市には、世界最大の生産基地があり、桃園空港付近にエヌビディアの物流センターのようなものもあり、近年ではスマートシティ推進に力を入れ、50以上の国際的な賞を獲得していることが紹介された。また、毎年３月に、台北のパソコン工業組合では、スマートシティの展示会が開催されており、毎年、海外からも多く参加しているので、ぜひ香川県も参加し、スマートシティ関連の交流が行えればと述べられた。

さらに、2022年までの10年間で日本に滞在した台湾人は57,000人となり、10年前の23,000人から倍以上となっていることや、エンジニアなどの高い人材が1,000人から12,000人以上と増えており、日本が台湾にとって好ましい就職・居住環境であり、今後、高校から大学レベルの交流を重視し、香川県の教育機関と連携を深め、言語だけでなく日本文化の理解を促進し、長期滞在を希望する学生の準備を支援してまいりたいと述べられた。

最後に、池田知事、氏家議長、張桃園市長の間で記念品贈呈があり、記念撮影をして終了した。



桃園市長表敬での記念撮影



池田知事、張市長、氏家議長による記念撮影

（３）桃園市児童美術館視察

令和８年９月21日（月）15:45～16:30

応対者：桃園市文化局長　邱正生 氏

（館内展示説明はキュレーターが対応）

概　要：

邱文化局長と池田知事の間で記念品贈呈を行い、記念撮影後に、館内の視察を行った。桃園市児童美術館は、子どもたちの参加を基本理念とし、現代美術をテーマに活動しており、展示ホールは１階２階に児童・青少年向けのワークショップ、３階にアートライブラリーが設けられている。

視察時には９月24日から桃園市で開催されるデザインエキスポに合わせて【一様不一様：同じだけど違う】をテーマにした展示会が開催されていた。包括的、インクルーシブとは何かを子供たちに考えてもらうことがテーマとなっており、フランス、アメリカ、及び地元の９組のアーティストを招待し、地元の子供たちと共に協力して作品作りが行われていた。

展示品は実際に触れることができ、訪れた子供たちが体験を通して学ぶことができるようになっており、芸術家の思いが感じられるものであった。





桃園市児童美術館視察の様子

（４）桃園市・香川県交流協定締結10周年記念晩餐会

令和８年９月21日(月) 18:00～19:30

応対者：桃園副市長　王明鉅 氏
　　桃園市文化局長　邱正生 氏
　　桃園市體育局長　許彦輝 氏
　　桃園市秘書處處長　曾俊豪 氏
　　桃園市副教育局長　林威志 氏

概　要：

王副市長から歓迎の挨拶があり、桃園市と香川県との、これまでの音楽、スポーツ、教育、文化、観光分野での過去10年間の双方向の訪問と民間交流が、両都市にとって貴重な人的・都市的財産となっており、この10周年を新たな出発点とし、より広範かつ深化された交流を推進することが述べられた。また、半導体産業の動向と桃園市の支援計画、桃園市龍潭（ロンタン）に約100ヘクタールの最先端半導体工場を建設する計画があり、香川県関係者に対し、将来的な龍潭工場への視察の提案があった。

桃園市で今年開催される大型スポーツ大会「全民運動会」が紹介され、大会マスコット「阿桃（アタオ）」と「園哥（ユアンガー）」が来場し、この大会をPRされた。

池田知事から御礼の挨拶のほか、邱文化局長、許體育局長の挨拶の後、様々な意見交換を行った。







晩餐会の様子

（５）中華精測科技股份有限公司（ＣＨＰＴ）

令和８年９月22日(火) 10:00～11:30

応対者：CHPT総経理　黄水可 氏

概　要：

世界トップレベルの半導体製造拠点を有する台湾において、最先端チップの品質管理・出荷前テストの中核を担うCHPT社を視察した。同社研究開発本部ビルの設計理念として、企業文化に合致した理想的な職場環境を構築するため、４つの要素を融合させており、第一に「テクノロジー感」で、ガラス、石材、金属を多用して表現し、第二に「温かみ」で、柔らかな木材と照明を巧みに使用し、「温度」を感じさせ、第三に、社員のストレスを考慮し、広々とした吹き抜け空間を採用してストレス緩和を図り、第四に、内部に意図的な「余白」を設け、社員が心を落ち着かせる場所を提供するなど、心が落ち着き、働きやすい空間となることがコンセプトにあり、従業員のストレス緩和が強く意識されていた。

同社は、ウェハ（半導体チップを作るための基盤となる板）の誕生からシステム応用までを網羅する完全なテストプロセスを構築しており、「All-in-house（自社一貫体制）」の自社開発モデルと人工知能（AI）技術の深い融合により、設計、生産、品質管理の各工程で効率的かつ精密な自動化を実現しており、HPC（ハイパフォーマンスコンピューティング）およびAIチップテスト分野におけるトップランナーとしての地位を強固なものにしている。

半導体テスト（チップのテスト）を行っており、「チッププロービングからバーンイン、ファイナルテスト、システムレベルテストに至る４工程」からなり、すべてのテスト段階をカバーできる世界で唯一のメーカーとして、半導体サプライチェーンにおいて極めて重要な役割を担っている。

AIへの挑戦として、AIで進化する「All in House」モデルを採用しており、最終段階は「AI in House」とし、最後に「揺るぎない生命力で前へ」として、動画①「AIを活用した応用方法」、動画②「いかに経験の継承をしているか」が上映された。

この中で、AIを使い、熟練従業員の長年の経験を収集・分析し継承していく取組みが行われていた（Agentｰ P）。これにより本来数年を要していた若手従業員の育成が約半月に短縮され、複雑な仕事を簡略化可能となり、少子化問題にも対処可能となる。

このほか、世界中のサプライチェーンを管理し、AIが価格の妥当性を検証することなども取り入れられていた。

【質疑応答】

池田知事：テストはこの場所で実施しているのか？それともテスト機器を製造してメーカーに販売する会社なのか？

黄総経理：包括的なソリューションを提供しており、テスト機器の製造だけでなく、様々なプロセスを自社で行っている。

池田知事：将来、香川県内企業がCHPT社の顧客になる可能性がある。

植條議員：日々進化する半導体のテストに対処するための技術更新は？

黄総経理：TSMCのような最先端企業と連携し、常に技術を更新している。

城本議員：日本から仕入れている物は？

黄総経理：精密なベアリング、光学のものさし、特殊なチタン合金など多数

里石議員：Agent-Pを例えば香川県庁に導入することは可能か？
黄総経理：非常に包括的なシステムであり複雑だが、段階的であれば一部業種での活用は可能かもしれない。
川池議員：人材確保の手段は？
黄総経理：主に台湾で確保しているが、人材雇用会社の活用やヘッドハンティングであり、海外からも行っている。日本の会社（㈱ヨコオ）とも提携している。




CHPT 視察の様子

7　所感（成果及び県政への反映方策）

議長　氏家　孝志



桃園市・香川県交流協定締結10周年を記念し、去る9月20日から22日までの2泊3日の日程で、池田知事と県議会議員9名による訪問団の一員として、台湾・桃園市を訪問してまいりました。

今回の訪問では、まず桃園市立図書館で開催された「桃園市・香川県交流協定締結10周年記念講演会」に参加いたしました。講演会では、池田知事から香川県の概要や魅力について紹介し、その後、桃園市側の参加者との質疑応答が行われました。質疑の中では、本県の食や文化、芸術活動などについて大変高い関心が寄せられ、「ぜひ香川県を訪れてみたい」「もう一度訪れたい」といった声も多く聞かれました。今回の講演会は、香川県の魅力を改めて発信するとともに、桃園市の皆様に本県への関心をさらに深めていただく貴重な機会となり、両地域の交流促進に大変意義のあるものとなりました。

また、桃園市役所を訪問し、張市長を表敬いたしました。懇談では、昨年、張市長に「瀬戸内国際芸術祭」の視察のため香川県を訪れていただいたことへの感謝を申し上げるとともに、2016年の交流協定締結以来、音楽、スポーツ、マラソンなど、幅広い分野で友好交流を積み重ねてきたことを振り返りながら、今後のさらなる交流の充

実・深化について意見交換を行いました。その中では、熊本県に台湾積体電路製造（TSMC）の半導体製造工場が進出していることや、本県が中四国地域で唯一「GX戦略地域」として正式に認定されたことなどを踏まえ、今後、AI・IT分野における交流や連携をさらに強化していくことについて意見が交わされました。また、台湾から香川県への留学生の増加などによる人材交流の促進、さらに、毎日運航されている桃園市と高松市を結ぶ定期航空便を活用し、若者から高齢者まで幅広い世代の交流を一層促進していくことなどについても、活発な意見交換が行われました。今後の両地域の友好交流を、これまで以上に幅広い分野へ発展させていくことへの期待が大きく膨らむ懇談となりました。

さらに、桃園市立図書館と桃園市児童美術館を視察いたしました。両施設とも、開放的で魅力あふれる空間づくりがなされているだけでなく、最先端のIT技術を積極的に活用した素晴らしい施設でした。桃園市は、台湾の中でも人口増加が著しい自治体の一つですが、こうした住民が快適で潤いのある生活を送るための魅力的な公共施設の整備が、地域の魅力を高め、人口増加の一因にもなっているものと感じました。

翌日には、半導体の製造・検査工程に欠かせないテスト用インターフェース製品であるプローブカードやテスト基板などを開発・製造する「中華精測科技股份有限公司（CHPT）」を視察いたしました。同社は、AI半導体や最先端プロセスの進展に伴い、半導体の検査工程の重要性が高まる中、急速に成長を遂げている企業です。企業の取り組みについて説明を受け、さらに質疑応答を行う中で、人材確保の難しさや、AI技術を活用した業務の効率化、人材育成プログラムの高度化などについて、貴重なお話を伺いました。また、同社では資材やモーター、ベアリングなど、多くの部品を日本から調達しているとのことで、日本企業との長年にわたるつながりと、今後さらにその関係を深めていくことの重要性についても認識を新たにしました。今回の視察は、今後、香川県と台湾との間でAI・IT、半導体などの先端分野における交流や連携を進めていく上で、大変有意義な機会となりました。

香川県と桃園市が交流協定を締結したのは、2016年7月18日のことです。協定締結に際しては、桃園市から鄭市長を団長として、市政府幹部や市議会議員など40名を超える「2016桃園×香川友好交流訪問団」が香川県を訪問されました。そして今回、交流協定締結10周年という節目を迎え、本県訪問団が桃園市を訪問する運びとなりました。

この10年間、両地域の交流は着実に広がりを見せています。高松市と桃園市を結ぶ定期航空便が毎日運航されているほか、台中市との間では週5便、高雄市との間では週3便の航空便が就航するなど、香川県と台湾との往来は、かつてないほど活発になっています。また、かがわジュニア・フィルハーモニック・オーケストラ（KJO）と武陵高級中学との音楽交流や、香川県選抜チームと南崁高級中学との女子ソフトボール交流では、隔年で相互に訪問し、合同演奏会や交流試合、ホームステイなどを通じて、次代を担う若者たちの交流が深められています。さらに、桃園ハーフマラソン、かがわマラソン、丸亀ハーフマラソンなど、スポーツを通じた交流も着実に広がっています。

このように、両地域の交流が年を追うごとに活発になっていることは、これまで相互訪問を重ねながら交流の礎を築いてこられた先輩方をはじめ、多くの関係者の皆様のご尽力の賜物であります。こうした交流は、単に人的往来を増やすだけではありません。交流人口の拡大による経済波及効果はもとより、国籍や民族などの違いを超えて、それぞれの文化や価値観を認め合い、人権を尊重しながら、地域社会の一員として共に暮らす「多文化共生社会」の実現にもつながるものです。そしてそれは、本県

が目指す「国際化の推進」にも大きく寄与するものと考えております。私自身、これまでも観光キャンペーンや友好交流の促進などのため、何度か台湾を訪問してまいりました。

今回の訪問を通じて、改めて感じたのは、交流の原点にあるのは、制度や協定だけではなく、人と人とのつながり、そして互いを思いやる友情であるということです。これまで先人の皆様が築いてこられた桃園市との友情と交流の絆を、私たちの世代でさらに大きく育て、次の世代へしっかりと引き継いでいかなければならないとの思いを新たにした、今回の訪問となりました。

今後とも、香川県と桃園市との交流が、文化、スポーツ、観光、教育、さらにはAI・ITや半導体などの産業分野へとさらに広がり、両地域の発展と、未来を担う若い世代の新たな可能性につながっていくことを大いに期待しております。

議員　里石　明敏



香川県と台湾桃園市との交流協定締結から10周年という大きな節目に際し、訪問団の一員として桃園市を訪れ、多彩な記念行事や現地視察に参加できたことは、誠に意義深く貴重な経験となりました。

滞在中、池田知事記念講演や桃園市長をはじめとする行政幹部の方々との意見交換を通じて、この 10 年間で育まれた両都市の深い信頼関係を再確認できました。音楽やスポーツ、教育を通じた青少年の交流から、高松・桃園間の定期航空便就航など、多様な分野での積極的な交流が強い絆を築いてきていることを改めて感じました。特に、瀬戸内国際芸術祭の知見を桃園市のイベント（桃園ランドアートフェスティバル）に活用するといった文化・観光面での相互影響や、両都市の図書館連携をはじめとする知的な交流の拡がりが見られたことは、その大きな成果です。

また、中華精測科技股份有限公司（CHPT）の視察では、新しい視点や考え方を提示していただきました。桃園市は世界的なIT・AI産業の拠点として発展しており、視察したCHPT社における自社一貫体制の自動化や、AI（Agent-P）を活用した熟練技術の継承・育成期間の大幅短縮といった取組は、少子高齢化や人手不足に直面する本県においても大変参考になる先行事例でした。

本県が目指すデータセンターを中心としたITインフラ拠点形成やエヌビディアとの連携を踏まえ、先端技術分野における両都市の協力関係には大きな可能性が秘められていると実感しました。

今回の訪問を通して、これまでの10年間で培われた揺るぎない絆を基に、これからは経済・教育・先端技術・地域共生といった多様な領域へと交流を一段と広げ、深めていく必要性を強く認識いたしました。また、知事の講演会における意見交換では、地元の方々が日本や香川県に強い親しみと関心を持ち、何度も来県されているといったお話がありました。現在、台湾からのインバウンドは順調に推移しておりますが、今後は双方の往来を促し、真の相互交流を確立するためにも、本県からのアウトバウ

ンドを増加させる対策が早急に必要であると考えます。
　これらの貴重な成果を今後の県政・地域振興へ確実に反映させ、双方の発展と持続可能な連携の強化に向けて尽力してまいりたいと思います。

議員　氏家　寿士



　桃園市と香川県の交流締結10周年という節目に、派遣訪問団の一員として桃園市を訪問しました。これまで両地域が積み重ねてきた交流の歩みを振り返るとともに、今後のさらなる発展に向け、意見交換を行う貴重な機会となりました。
　桃園市長表敬訪問では、張善政桃園市長と、音楽交流、国際定期便、イベント、マラソン大会などについて意見を交わしました。音楽交流については、これまで交流の中心となってきたKJO（かがわジュニア・フィルハーモニック・オーケストラ）だけでなく、子どもから高齢者まで、さまざまな世代の県民が参加できる機会を設け、世代を超えた音楽交流を通じて、両地域の相互理解が一層深まるのではないかと考えます。また、国際定期便については、空路だけでなく、クルーズ船などによって四国や関西と桃園を結ぶ新たな航路の可能性も提案できればと思います。さらに、２回目を迎える「かがわマラソン」については、県内の観光イベントや文化行事等と組み合わせることで、桃園市をはじめ台湾からの誘客促進につなげていただきたいと考えます。
　桃園市児童美術館では、子どもたちの参加を基本理念として、現代美術をテーマに活動し、子どもたちが芸術と日常生活を体験しながら、批判的思考力や寛容性、社会参加と実践の力を育む取り組みは大変素晴らしく、香川県においても、子どもを中心とした美術館の整備を検討することは、衰退しつつある文化活動や郷土芸能の活性化にもつながるのではないかと感じました。
　晩餐会では、王副市長や幹部職員の皆様とイベントを中心に意見交換を行い、今後は、両地域を訪れる人々がより長く滞在し、交流を深められる観光コースの開拓や、それぞれの特色ある食文化を生かした交流などにつなげていければと考えます。
　中華精測科技股份有限公司（CHPT）では、半導体業界で必要とされるテスト用インターフェース基板について説明を受けました。同社は2001年以来、ICテスト用ロードボードやメモリーテスト用DUTボード等を手掛け、2025年の年間売上高は約240億円に上ります。日本企業との取引も多いと伺い、香川県の企業との連携や企業間交流の可能性を感じました。
　今回の訪問では、これまでの交流を通じて積み上げてきたものの大きさを改めて確認するとともに、今後、両地域の企業や食文化等の新たな分野の交流を深めていくことにより、幅広い交流につなげていくことの重要性と可能性を感じることができました。
　10周年という節目を新たな出発点として、桃園市との友好交流が20年、30年と末永く続くことを祈念しますとともに、香川県議会議員として、香川県の国際交流、観光振興、文化・産業の発展に向けて、今回の訪問で得た経験を踏まえ積極的に努めてま

いります。

議員　城本　宏



①桃園市･香川県交流協定10周年記念講演会
　及び桃園市長表敬訪問
　香川県との交流協定を締結後の様々な交流（文化･芸術･教育･経済）により、台北（桃園）～高松航空便利用者数は順調に増加し、2012年の1,198人から2025年には99,436人と劇的に増えていることが紹介されました。この間、コロナウイルス感染症により2020年及び2021年の２年間は利用者数0人、2022年は9,839人と影響が出ましたが、その他の年は一度も利用者数が減ることなく右肩上がりで伸びており、桃園市と香川県双方にとても喜ばしいことだと話がありました。今後も積極的な交流を進めることにより、航空便利用者数増加が見込まれ、香川県経済にも大きな好影響が考えられます。来年春には、高松空港の国際線の拡張工事が完成する見込みであり、今後ももっと利用者の利便性向上に向けた離発着時間の工夫や便数の増加につなげるよう香川県の動きが必要と考えます。
　張善政桃園市長への表敬訪問では、これまでの10年間の音楽、スポーツ、文化などの交流事業を振り返り、両地域の相互理解が着実に深まりを見せているとして、これから先も、既存の交流事業だけでなく、観光や経済・産業など多岐にわたり一層広がり、桃園市と香川県のますますの発展に繋がるよう尽力していくことを双方で確認しました。
②桃園市立図書館視察
　池田知事による記念講演会が行われた図書館を視察しました。52,438㎡の敷地に、映画館やレストラン、お土産売り場などからなる地下２階･地上８階建ての複合施設で、最新のデジタル技術によりオートメーション化された図書館スペースは、少人数で運営できるとともに、利用者の利便性にも十分に配慮された仕組みが取り入れられていました。また、各フロアにテーマがあり、大人から子供まで楽しめる空間づくりが意図されている点など、これからの交流施設の在り方を考えるうえで大いに勉強になり、今後の政策提言に活かしてまいりたいと考えます。
③桃園市児童美術館視察
　本美術館は基本的に児童が展示品に触れ、遊ぶ体験を通じて学び感じることできる参加型の美術館で、子供のサイズにあった遊具など、児童の好奇心をくすぐる仕掛けが工夫され、視察当日も親子連れの方々がお越しで、子供たちが遊びながら施設を楽しんでいたことが印象的でした。
　また、近代的な建物の外観や空中回廊により外公園と本館が繋がった洗練された設計となっていました。香川県でも「あなぶきアリーナ香川」が昨年、世界でいちばん美しいアリーナに選定され注目を集めており、機能とともにデザインなどの芸術性が持つ影響力も重要であると感じ、今後の参考としてまいりたいと考えます。
④交流協定締結10周年記念晩餐会

王桃園副市長や体育局長他、桃園市関係者の皆様と約１時間半にわたり意見交換をさせていただきました。実際に香川県を観光で訪れた方から、「清潔できれいな街であった」との話を聞いたことや、近く香川を訪れる予定の方が香川での食事を楽しみにされている話など、桃園市の方が抱く香川県の印象や魅力を直接伺え大変有意義な時間となりました。

⑤Chunghwa Precision Test Tech Co Ltd（CHPT)中華精測科技股份有限公司　視察

CHPTは半導体業界で必要とされるテスト用インターフェース基盤のサービスを主力とする企業であり、機密保持には徹底されており、企業全体のガバナンス機能は素晴らしいと感じました。また精密部品などは日本企業から調達がなされており、NVIDIAとの連携協定締結により、香川県において、今後、本格的な取組みが進められる「香川県AIファクトリー推進コンソーシアム」よるAIの活用や関連企業の誘致、人材育成などを通じ、将来的に県内企業の本業界への参入も見えてくるのではないかと感じました。

議員　植條　敬介



香川県と台湾・桃園市との交流協定締結10周年を記念する派遣訪問団に参加し、桃園市長への表敬訪問や現地施設、企業の視察などを通じて、今後の両地域の交流について考える貴重な機会となりました。

香川県と桃園市は、平成28年（2016年）７月の交流協定締結以来、文化、観光、教育、スポーツなど、幅広い分野で交流を積み重ねてきました。桃園市長からは、音楽やスポーツなどを通じた学生同士の交流を大切にしていることや、今後も友好関係をさらに発展させていきたいとのお話があり、これまでの交流によって築かれた信頼関係を、次の世代へとつないでいくことの重要性を感じました。また世界有数のAIサーバー製造拠点としての産業集積や、NVIDIAの物流拠点、AIなどを活用したスマートシティの推進についても紹介がありました。桃園市が先端産業の集積を生かしながら、都市づくりにも積極的に取り組んでいることは、香川県の今後の産業振興を考えるうえでも大いに参考になるものでした。

香川県においても、本年、NVIDIAとの連携協定を締結し、AIの活用や関連企業の誘致、人材育成などに取り組んでいます。私は、こうした取組みを進めるに当たっては、企業誘致や産業集積そのものを目的とするのではなく、その成果を県内企業の生産性向上や新たな事業の創出、雇用の拡大などにつなげていくことが重要であると考えています。今後、こうした機会を生かして、両地域の企業や大学、行政などが交流を深め、具体的な連携へと発展させていくことが期待されます。

桃園市立図書館の視察では、デジタル技術を取り入れた設備や利用者の利便性に配慮した施設づくりが印象に残りました。図書館についても、単に本を貸し出す施設としてだけでなく、幅広い世代が学び、交流できる場として、その役割を考えていく必要があると感じました。

最後に訪問したAI・IT関連企業のCHPT社では、CEOから直接、技術や事業展開につい

て説明を受け、両地域の企業や大学などとの連携の可能性についても意見交換を行いました。

今回の視察を通じて、AIやデジタル技術は、産業の振興だけでなく、人口減少や人手不足への対応、交通、物流、防災、観光など、地域が抱えるさまざまな課題の解決にも活用できる可能性があると感じました。今後は、企業、大学、行政などが連携し、こうした技術を実際の地域課題に生かしていく取組みを進めることが重要であると考えます。

また、教育や人材育成の面でも、これまでの学生同士の交流に加え、留学生の受け入れや専門人材の育成など、将来の産業を支える人づくりにつながる交流を進めていくことが必要だと思います。

今後は、こうした信頼関係を大切にしながら、経済や産業、人材育成など、より幅広い分野で具体的な成果につなげていくことが求められます。今回の訪問で得た経験を県政に生かし、桃園市との交流が、県内企業の成長や地域経済の活性化、さらには県民生活の向上にもつながる、実効性のある交流となるよう取り組んでいきたいと考えています。

議員　川池　秀文



今般、香川県議会桃園市交流協定締結10周年記念訪問団の一員として、台湾・桃園市を訪問し、池田知事による記念講演や桃園市長への表敬訪問の記念行事に参加し相互交流を深め、友好親善関係の強化に努めてまいりました。

記念講演会では、桃園市と香川県のこれまでの交流の歴史を紹介するとともに、香川の誇る農産物や産業、観光地など香川県の魅力のPRを行い、本県を桃園市の皆様に知っていただく貴重な機会となりました。

桃園市長への表敬訪問では、改めて、これまでの音楽をはじめ、ソフトボールやマラソンなどの交流事業を通じ、相互理解が促進され友好を深めてこられたことに感謝の意を示すとともに、今後の更なる交流発展に向けて、双方が努力していくことを確認しました。同行した本県の経済界からは、香川県と台湾との商談会の開催など、経済交流の拡大についても意見がなされ、桃園市からも近年力を入れているスマートシティの取り組みや、展示会・見本市に海外からも多くの参加があることなどが紹介され、経済・産業を通じた交流が両地域の発展につながると感じました。

また、桃園市の先進的な施設である市立図書館や市立児童美術館を視察し、開放的な建築、デジタル化された多機能な設備、国際化の中での蔵書や閲覧環境など、市民が気軽に訪れ、学び、交流できる工夫が多々見受けられ、次世代の育成に向けた取組みなど、示唆に富んだ内容でありました。

児童美術館では、子どもの参加を基本理念として、現代美術をテーマにしており、視察時には、人間の多様性を尊重し、障害のある子どもや外国にルーツを持つ子どもを排除しないなど、インクルーシブな教育をテーマとした展示会が開催されており、

本県においても多様性を尊重する社会の形成が重要となっており、今後の教育・人材育成に向けて大変参考となりました。

AIを積極的に導入し、半導体の性能を検査している中華精測科技股份有限公司（CHPT）の視察では、現在、世界市場を大きく占有する台湾の半導体関連企業の研究開発の状況、高度人材の養成などについて、説明を受けました。

今回の桃園市訪問は、台湾の現状を認識するとともに、本県と桃園市との友好親善や教育、文化、経済などの交流の拡大に向け、大変有意義でありました。今回の訪問で得た知見や経験については、本県における教育、人材育成の在り方や企業立地の推進などに積極的に活用してまいりたいと考えております。

議員　山根　千佳



このたび、桃園市・香川県交流協定締結10周年記念事業の派遣訪問団の一員として、台湾・桃園市を訪問いたしました。これまで10年間にわたり、両地域が文化、教育、スポーツ、人的交流などを通じて築いてきた交流の歩みを改めて振り返るとともに、これからのさらなる友好交流の可能性を考える、大変有意義な機会となりました。

今回の訪問で桃園市立図書館を視察し、最先端の設備やデジタル技術を取り入れ、幅広い世代が学び、交流し、文化に触れることのできる図書館の姿に、大きな刺激を受けました。特に印象に残ったのは、図書館が単に「本を読む場所」にとどまらず、人と人、地域と地域をつなぐ文化交流の拠点となっていることです。デジタル社会の今だからこそ本を通しての学びや生涯学習の場所の大切さを改めて実感しました。

桃園市と香川県が教育や文化の交流をさらに深めていくためには、図書館や「本」を通じた交流にも大きな可能性があると感じました。

桃園の歴史や文化、地域の魅力を本を通して香川の子どもたちに伝える。一方で、香川県が誇る歴史、文化、遍路文化、伝統産業などを桃園の皆様に本を通して知っていただく。こうした取り組みは、互いの地域への理解を深め、次の世代へ交流をつないでいく大切な架け橋になると考えます。また、桃園市立図書館の先進的な取り組みを実際に目にしたことで、香川県においても、図書館を「知識を得る場所」だけではなく、「人が集い、学び、文化を育み、地域の魅力を発信する場所」として、さらに活用していくことの重要性を感じました。今回得た知見を、今後の香川県の図書館行政や教育・文化施策にも生かしていきたいと思います。

さらに、桃園市長への表敬訪問では、これまで10年間にわたり積み重ねてきた交流が、行政だけではなく、地域の皆様や関係団体の皆様の努力によって築き上げられた「確かな絆」であることを改めて実感いたしました。10周年は一つの節目であると同時に、新たな交流のスタートでもあります。これまで築いてきた信頼関係を大切にしながら、教育、文化、観光、スポーツ、青少年交流など、さまざまな分野で交流の裾野を広げ、より実り豊かな関係へと発展させていくことが重要です。今回の訪問を一過性の交流で終わらせることなく、次代を担う子どもたちへとつなげていくことが、

私たち世代の役割であると感じています。香川県議会議員として、桃園市とのこれまでの10年の歩みに敬意を表するとともに、これからの10年、さらにその先へ向けて、両地域の交流がより深まり、互いの魅力を発信し合い、未来を担う人材を育む交流へと発展するよう、今後も取り組んでまいります。

議員　友枝　俊陽



桃園市と香川県との交流が10周年という大きな節目に、派遣訪問団の一員として台湾・桃園市を訪問しました。これまで両地域が積み重ねてきた交流の歴史や、多くの関係者により育まれてきた信頼関係を、現地で改めて感じる大変意義深いものとなりました。

桃園市長への表敬訪問においては、両地域の交流が、時代や社会情勢が変化する中、10年という決して短くない年月において、単に行政同士の交流にとどまるものではなく、音楽、教育、スポーツなど、さまざまな分野へと広がる中で、多くの関係者の熱意と努力が交流を支え、相互理解を深め、信頼関係を築き上げてこられた賜物であると実感し、両地域の大きな財産となっていることを認識しました。今回の訪問を通じ、友好交流を長く続けていくためには、「交流事業を実施すること」そのものを目的にするのではなく、次の世代に何を残していくのかという視点が大切であると強く実感したほか、今後は、これまでの交流をさらに発展させるとともに、地域産業や経済分野での交流など、より幅広い分野に交流の可能性を広げていくことも必要であると感じました。

その他、桃園市立図書館を視察させていただきました。従来イメージする図書館とは大きく異なり、非常に開放的で、最先端の設備やIT技術が導入され、利用者や従業員の利便性や効率性も配慮された施設でありました。また、世界中の本が揃い世界のことを学び、地域の文化に触れることができ、幼児から高齢者まで全世代が幅広く集える「人と本だけでなく、人と人とが出会う交流の場」としての役割が強く意識されていることが印象的な施設でありました。

近年は、スマートフォンなどの普及により、情報が瞬時に得られる時代だからこそ、一冊の本を手に取り、時間をかけて読み、考え、学ぶことの価値は、むしろ以前にも増して重要になっているのではないかと感じます。今回の視察で、図書館には、世代を超えて人が集う公共空間として、大きな可能性を持っていることを改めて認識しました。

10周年を記念し、桃園市と香川県の双方の図書館で、互いを紹介する展示会が開催されます。このような取組みは、香川県の歴史、瀬戸内海、四国遍路、讃岐うどん、伝統工芸、祭りなどを紹介することで、より多くの桃園市の方に香川県の魅力を知っていただく良い機会だと感じました。

国や地域が異なれば、言葉や文化、生活習慣も異なります。しかし、幼い頃から互いの地域を知り、文化に触れ、身近に感じることができれば、将来にわたって交流を支える人材の育成にもつながります。さらに、双方の子どもたちが同じ本を読み感想

を交換する読書交流や、企画展示、オンラインを活用した文化交流などへと発展させていくなど、今後、「本」や「図書館」を新たな交流の入り口として活用することには大きな可能性があると考えます。

これまで10年間にわたり交流を支えてこられた多くの皆様に敬意を表するとともに、今回の訪問で得た気づきや経験を県政に生かし、香川県議会議員として、桃園市と香川県との交流が、これからの10年、さらにその先へと着実につながり、未来を担う子どもたちや若い世代へ受け継がれていくよう、今後も取り組んでまいります。

議員　宮岡　陽子



桃園市と香川県の交流協定締結10周年を記念し、現地での池田知事による記念講演会への出席ならびに主要施設の視察を実施しました。音楽交流をはじめとする交流事業を通じて、両地域の関係者がこれまで積み重ねてきたこれまでの歩みを振り返り、両地域の相互理解を一層深め、これから先もお互いにとって実りある交流を共に築いていくという認識を共有するとともに、先進的な公共施設の運営事例や最新技術の活用状況を把握し、香川県における今後の施策やまちづくりに参考となる知見を得る機会となりました。

①記念講演会および質疑応答の様子

桃園市立図書館にて開催された記念講演会には多くの桃園市民の皆様が参加してくださいました。講演終了後の質疑応答では、参加者から香川県に関する質問が絶え間なく寄せられ、予定時間を超える勢いの熱気に包まれました。市民の皆様の日本および香川県に対する関心の高さと深い親愛の情を体感し、10年間の交流が確固たる信頼関係として結実していることを強く実感しました。

②桃園市長表敬訪問

張桃園市長への表敬訪問では、これまでの両地域における音楽、マラソン、ソフトボールなどの交流事業が参加した学生たちにとり、異なる文化や考え方に触れることができる非常によい経験となっていることを互いに確認しました。また張市長から昨年の「瀬戸内国際芸術祭」の視察が、桃園市で今年開催した「桃園ランドアートフェスティバル」に非常に参考となり成功を収めたことなどが紹介されました。

これまでの10年の歩みを振り返るとともに、これから先の交流に向けて、これまでの音楽やスポーツ交流のほか、経済など新たな交流の幅が広がるように、双方が協力し合い、築き上げていくことをお互いに認識を共有しました。

③施設視察および先進的取り組み

桃園市立図書館の視察では、香川県立図書館との共同フェアの実施予定スペースを確認したほか、専用アプリの導入やIC技術を活用した貸出・管理システムによる徹底した省人化・効率化の取り組みを学びました。同施設は映画館等の官民連携による一体的な複合運営を行っており、多世代を集客する街全体の賑わいと勢いを生み出す拠点となっていました。また、まちの賑わいと子どもの育成を兼ね備えた桃園市児童美

術館の視察を通じ、都市の文化的施策の推進力を確認しました。さらには、中華精測科技股份有限公司（CHPT）の高度な半導体検査技術やAI技術を駆使した人材育成の取り組みなどを視察しました。

④総括

本訪問を通じ、桃園市の文化的・産業的活力を実感しました。

これまでの10年に渡る交流事業で培われた市民レベルでの強固な絆を再確認するとともに、アプリやIC技術による業務効率化、官民連携による賑わい創出など、都市経営において非常に示唆に富む知見を得ました。また、高度な産業振興の知見を香川の地域課題と照らし合わせ、限られた予算の中でも県民満足度の高い公共施策や地域経済の活性化策として結実させてまいります。